

3 校務DX計画

□提言

- ・教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策（提言）
～教師の専門性の向上と持続可能な教育環境の構築を目指して～
（令和5年8月 中央教育審議会初等中等教育分科会 質の高い教師の確保特別部会）
- ・GIGAスクール構想の下での校務DXについて
～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～
（令和5年3月 GIGAスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議）

□チェックリスト

- ・GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト（令和6年度）

（1）クラウドツールを活用した教職員間での情報交換

- ・教職員間の情報共有や連絡に、Google ClassroomやMicrosoft Teams等を活用している。

（2）会議資料のペーパーレス化

- ・職員会議や学年会議、教科部会等の会議資料はクラウドサービス等を利用し、ペーパーレス化が進んでいる。令和8年9月以降は、より多くの場面でペーパーレス化が見込まれる。

（3）校務処理の負担軽減

- ・校務支援システムへの不必要な手入力を廃止している。
- ・令和8年9月以降は、学校と市教育委員会が共通のクラウドサービス（校務支援システム（グループウェア））を利用することで、学校と市教育委員会との各種手続きを電子データでやりとりできるようにし、ペーパーレス化、さらにはFAXや不要な押印・署名の廃止を目指す。また、市教育委員会から保護者に直接電子データを送付できるようにし、学校の印刷等をなくすことで業務軽減を目指す。
- ・令和8年9月以降は、校務支援システム（グループウェア）により、教職員の勤怠も管理できるようにする。ただ、クラウド環境を校外で使用した際の勤怠管理については、適切な仕組みを整える必要があるため、今後、慎重に検討を重ねていく必要がある。

（4）学校と保護者等の連絡手段のデジタル化

- ・児童生徒の欠席・遅刻・早退等の連絡は、デジタル連絡ツールやGoogle Forms等を活用している。
- ・学校から保護者への連絡ツールは、文字データを送信できるものを全学校で導入している。
- ・学校から保護者への文書の配布は、デジタル連絡ツールによる電子データの送付を、多くの学校で実施している。令和8年9月以降は、全学校で実施する予定である。
- ・保護者への調査・アンケート等は、Google Forms等のオンラインフォームで実施、集計している。
- ・令和8年9月以降は、保護者連絡ツールによる文書の電子データ送付や欠席・遅刻・早退等の連絡、調査・アンケート実施を一元管理できるよう計画している。